

## 第6回 首都圏広域地方計画有識者懇談会／議事要旨

日 時：平成21年6月25日（木）15：00～16：30

場 所：TKP代々木ビジネスセンター プラザ館3階 ホール3A

出席者：家田座長 ほか 計 16 名

### 議事

- (1) 首都圏広域地方計画について
- (2) 意見交換

### 討議内容

(委員)

- ・温暖化対策は、急速に具体化が進んでいるので、最新の情報を盛り込むべき。
- ・バイオマス資源の再生利用については、循環型社会形成プロジェクトのみならず地球温暖化プロジェクトにも記載すべき。

(委員)

- ・各プロジェクトについて、誰がいつまでに何をやるのか明確にすべき。

(委員)

- ・唯一、web（蜘蛛の巣）構造プロジェクトで都市構造に関する記載がなされているが、それが今後のあるべき都市構造とも思えない。首都圏の骨格、構造イメージが分かりにくい。
- ・人口の半分以上が勤労しない社会があと十数年でやってくる。現状からそうした状況に移行するのに伴う痛みの部分を書き込むべき。

(委員)

- ・他省庁との連携についての見取り図を示すべき。
- ・残すべき社会資本やそれをどのように作り出すのかという視点や、国土を大事に利用し、保全していく主旨での記載をすべき。

(委員)

- ・24のプロジェクトは6つの節に分けて記載されているが、複数の節に関連するものがあり、1つの施策が節を超えて効果を及ぼすものがある。節の分け方を越えたプロジェクトのメリットも加えるべき。

(委員)

- ・首都圏外の空港については、取組主体が不明確になってしまうので、首都圏の空港と書きぶりを変える必要があるのではないか。
- ・自転車利用については、歩行者の安全の観点と地球環境の観点から、第2章においても記載すべき。

(委員)

- ・キーコンセプトと思われる横断的な施策が分かりにくい。
- ・パブリック・インボルブメントのような、どのように地域を巻き込んでいくのかという推進方法に関して記載すべき。

(委員)

- ・広域地方計画は社会資本の重点整備方針と両輪だが、他省庁の計画との関連も考えるべき。
- ・空港・港湾のセキュリティ対策に関して記載するとともに、その対策において先端技術を駆使し世界をリーディングする旨記載すべき。
- ・首都圏は何を目指し、どのようなウェイトで進めていくのかを記載すべき。

(委員)

- ・国際ビジネス拠点プロジェクトの参考資料において、「証券取引所のシェア、コンベンションの開催件数」が記載してあるが、何を指すのか不明。
- ・国際ビジネス拠点プロジェクトのユビキタスのイメージ図について、特定の研究活動を指しているため、変更すべき。

(委員)

- ・中山間地域については、都市の住民も含めて皆で支えていく旨記載すべき。
- ・カーボンフットプリント、CO<sub>2</sub>削減率などで「見える化」を図りながら温暖化対策を進める旨記載すべき。
- ・森林整備がCO<sub>2</sub>の吸収源として注目されているということと、その推進について記載すべき。

(委員)

- ・第2章のみならず、第3章の利根川・荒川おいしい水プロジェクトにおいても、「流域全体で」考えることを記載すべき。
- ・安定的に加え、「多様な」水資源の確保についても記載すべき。
- ・複合的災害に対応したハザードマップ、対策の必要性について記載すべき。
- ・防災に関する取組に関して、行政だけでなく、住民の方々にも意識を持ってもらう必要性について記載すべき。
- ・南関東水と緑のネットワーク形成プロジェクトは、南関東だけに限定しているが、北関東は必要ないのか。重要な湧水地域がある北関東についても言及すべき。

(委員)

- ・街道・歴史まちづくりプロジェクトに関して、重要伝統的建造物群保存地区について記載すべき。
- ・農山漁村の活性化プロジェクトでは、農業関係について全体的に細かく記載されているが、農林水産省との調整は出来ているのか。

(委員)

- ・街道・歴史まちづくりプロジェクトに関して、伝統文化の保全・育成のようなソフト面について記載すべき。
- ・広域観光交流推進プロジェクトに関して、観光系人材の育成やホスピタリティの強化について記載すべき。

(委員)

- ・各々のプロジェクトは内需の喚起に合致したものである。その中で早くやるもの、重点的にやるものについての議論状況をお聞きしたい。

(委員)

- ・この次の計画では、首都圏の流入人口は減ることになるため、どこを整備し、どこをあきらめるのかを記載すべきであり、その点を踏まえた記載ふりとすべき。

(委員)

- ・人口減少の現実の生データを共通認識として示すべきであり、縮減・シュリンクといったキーワードを入れるべき。
- ・市町村や都道府県では対応できない課題に対応するための広域計画の意義、必要性を前書きに記載すべき。
- ・太平洋・日本海ゲートウェイプロジェクトとweb（蜘蛛の巣）構造プロジェクトは、同じ地図を用いており、それぞれのプロジェクトに対応した地図に変更するとともに、現況を示した地図もつけるべき。

(座長)

- ・プロジェクトの相互関連、関連の高いプロジェクトを記載すると分かりやすくなるのではないか。
- ・同じ地図を複数のプロジェクトで使うのは手抜きに見えるので好ましくない。
- ・LRTの説明で「次世代型」という表現はやめるべき。
- ・首都圏には多数の留学生がおり、この存在が刺激になっていることを第2章に記載すべき。

- ・地球環境に関して、不要不急の車の利用の抑制について記載すべき。

以上